

『家庭生活についてのおたずね』にご協力いただいている皆さまへ

拝啓 皆様にはますますご清栄のことと存じます。

今年度も『家庭生活についてのおたずね』にご協力いただき、まことにありがとうございました。関係者一同、心より厚く御礼申し上げます。

ご協力いただいている『家庭生活についてのおたずね』（消費生活に関するパネル調査）はこれまで公益財団法人家計経済研究所が実施してまいりましたが、来年度以降は、慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センターが実施主体となることになりました。

公益財団法人家計経済研究所は、1986年の設立以来、約30年にわたって家計経済に関する調査・研究を行ってまいりましたが、一定の役割を果たしたものとして、本年12月5日をもって解散することになりました。これまでのご理解・ご協力に衷心より感謝申し上げます。

皆さまにご協力いただいております本調査は、社会的に重要な研究と評価されております。そのため、新たな実施主体の下、これまでと同様に調査を継続していくことになりました。

調査にご協力いただいている皆さまの個人情報につきましては、これまでと同じく一般社団法人中央調査社が一元的に管理し、中央調査社の社員以外が個人情報に触れることは、今後も一切ありません。

これまでの皆さまのご協力を厚く感謝申し上げますとともに、今後とも引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

*調査ご協力者の皆さまに家計経済研究所から、記念のクオカードを贈呈させていただきます。

ご笑納いただけますようお願い申し上げます。

平成 29 年 11 月

消費生活に関するパネル調査研究会

公益財団法人 家計経済研究所
東京都千代田区九段北2-3-7 前川九段ビル

慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センター
東京都港区三田2-15-45

一般社団法人 中央調査社
東京都中央区銀座6-16-12 丸高ビル
TEL 0120 (48) 5351 (<http://www.crs.or.jp>)



本調査のお知らせは、慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センター

(<https://www.pdrc.keio.ac.jp/news/3359/>)

公益財団法人家計経済研究所

(<http://www.kakeiken.or.jp/jp/kongo.html>) のホームページでもご案内しております。

補足の情報をQ & Aの形にまとめました。

◇そもそも「家庭生活のおたずね」（消費生活パネル調査）の調査の目的は？

この調査は、学術・研究目的の調査として行うもので、営利目的の調査ではありません。毎年1回、同じ内容を質問するという方法で、消費生活や就業・意識などをたずね、生活上のさまざまな変化やその要因を明らかにし、これからの暮らしについての提言につなげることが調査の目的です。今年度を含めて25年間、調査を継続しています。これまでの調査結果は、『国民生活白書』など政府の白書や審議会での資料等で紹介されています。また、大学や研究機関でも活用され、数多くの研究成果が発表されています。

◇公益財団法人 家計経済研究所はどんな団体？

家計経済研究所は、1986年に設立された公益財団法人です。家計や生活の実態と将来について、生活者の視点に立って様々な調査・研究を行なってきました。

2000年12月には、(財)日本統計協会から「平成12年度 統計活動奨励賞」を、2006年7月には、東京大学社会科学研究所から調査研究への貢献に対する「感謝状」をいただいております。

◇ どうして慶應義塾大学に？

冒頭のお知らせでも、ご案内いたしました通り、「家庭生活のおたずね」は、社会的に価値のある調査として、家計経済研究所が解散後も調査を継続することを前提に検討し、パネル調査の研究実績や研究体制を考慮して、慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センターに移管をお願いすることになりました。

◇ 慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センターとは？

慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センターは、慶應義塾大学経済研究所に附属する機関で、パネルデータに関する研究分野の中心的な役割を担っていくことを目的に設立された研究教育組織です。これまでに、「家庭生活のおたずね」と同じく全国を対象とした日本家計パネル調査のほか、企業に関するパネルデータなどを調査・研究しております。詳しくはホームページ <https://www.pdrc.keio.ac.jp/> をご覧ください。

消費生活に関するパネル調査研究会はどのようなのですか？

消費生活に関するパネル調査研究会は、家計経済研究所の研究者と外部の大学・研究機関の研究者によって構成され、家計経済研究所とともに「家庭生活のおたずね」の運営を行ってまいりましたが、今年度で解散いたします。慶應義塾大学に移管後、これまでの研究メンバーを中心に、慶應義塾大学内の研究者と外部研究者からなる委員会を設立し、「家庭生活のおたずね」の運営を行っていく予定です。

◇ 私の個人情報とは？

「家庭生活のおたずね」は、調査開始から一般社団法人中央調査社が調査を実施しております。慶應義塾大学に移管後も引き続き中央調査社が調査の実施を行ってまいります。皆様の個人情報も中央調査社が一元的に管理しております。

一般社団法人中央調査社は、一般財団法人日本情報経済社会推進協会の審査を受け、適正なプライバシー保護を行っている機関の証となる「プライバシーマーク」を認定されています。



これまで同様に調査員は、プライバシー情報の管理を徹底いたしますので、回答結果や誰にアンケートを行ったのかを第三者に漏らすことは決してありません。

ご回答いただいた内容はすべて統計的に処理されるので、調査結果や分析からはご協力いただいたお宅や個人を特定することはできません。

◇ 調査方法や調査の内容が変わったりする？

毎年1回、同じ調査方法、同じ内容を質問するという方法で行なって、変化の有無やその要因を調査するのがパネル調査の基本ですから、調査のやり方は変えずに、調査員が質問用紙をお渡しして、お時間のある時にご回答をご記入いただき、後日、調査員が受け取る、「訪問留置法」で調査を行ってまいります。質問の内容も基本的に変更いたしません。社会の変化や対象者皆さまのライフステージの変化などに応じて、変更していくことはあります。

◇ 調査結果はどこで見ることができるの？

調査の約1年後に、今後の集計結果は慶應義塾大学パネルデータ設計・解析センターのホームページ (<https://www.pdrc.keio.ac.jp/>) で公表する予定です。また、調査の概要やこれまでの調査結果、質問内容、個人情報保護の指針なども、ホームページに掲載しています。

皆様のご協力に支えられながら、社会に役立つ調査・研究活動を継続していきたく存じます。今後ともご協力のほど、お願い申し上げます。